



目 次

支部長ごあいさつ	(60、S48年卒) 中西 憲幸	1
総会での話題提供①「排尿障害の基礎と最近の薬物療法トレンド」	(66、H11年卒) 鵜飼 政志	2
総会での話題提供②「くすりと薬物乱用」	(55、S43年卒) 牧野由紀子	2
ノンポリ学生の一生(公務員生活を振り返って)	(54、S42年卒) 牧戸 宏行	3
外資系企業で働いてみて思うこと	(57、S45年卒) 北野 栄一	4
患者になって思うこと	(59、S46年卒) 吉富 恭助	5
「アタック25」参戦記	(60、S48年卒) 大西美知子	6
ジアステレオ選択的アミドマーキュレーション反応	(78、H3年卒) 坂東 裕志	7
メディカル アフェアーズって何だろう?	(85、H10年卒) 本田(山本)唯子	8
これまでとこれから	(101、H26年卒) 東 秀行	9
薬学卒の商社マン!!	(101、H26年卒) 高橋 遼平	9
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 柿崎 直和	10
平成26年度首都圏支部活動報告・支部役員		12
平成26年度会計報告、平成27度予算(案)		13
平成26年度 支部年会費納入者一覧		14
編集後記		17
平成27年度定期総会開催案内及び会場交通案内		18
平成26年度首都圏支部総会集合写真		19



祝北陸新幹線開業

富山薬窓会首都圏支部長（㊟、S48年卒） 中西 憲 幸

縁あって、富山に2年半にわたり毎週1泊2日の出張をしました。東京から富山に行くのは飛行機派とJR派に分かれます。私は鉄道が好きなので、本来ならJRを利用するところですが、最寄駅から羽田空港行きのリムジンバスが運行しているので、もっぱら飛行機を利用しました。飛行機は天候に左右され、冬は欠航することがあるものの、私は運よく搭乗した飛行機は必ず目的地に着陸しましたので、飛行機を乗り続けました。羽田から飛んできた飛行機が富山空港に着陸できなかったことが2回あり、そのときはJRを利用し、無事東京へ戻ってこれることができました。

3月14日に悲願の北陸新幹線が開業し、北陸からは大阪よりも東京へ行く方が便利になり、北陸の商圏が変わるかもしれません。3月15日に「はくたか」に乗車しましたが、車両が新品で、新築の家のような感じです。乗り心地はとても良く、黒部付近から見える雪をかぶった立山連峰はとても雄大に見えました。

昨年からは首都圏薬窓会の総会や幹事会をコレド室町3に隣接しているビジョンセンター日本橋で開催しています。KOREDO（コレド）の意味はKORE（核）とEDO（江戸）の造語です。日本橋は五街道の起点であり、江戸の商業的中心地として栄えてきた歴史や伝統豊かなエリアです。広重の東海道五十三次の日本橋「朝の景」では、参勤交代の大名行列が朝早く江戸を出発する様子が描かれています。一方で魚を天秤棒で担いだ商人も描かれており、江戸で一番賑わっている早朝の日本橋の活気が伝わってきます。今年の総会は6月27日（土）14時から開催しますので、少し早めに来て老舗を巡り、江戸時代の日本橋にタイムスリップしてみませんか。

京都大学病院で始まった「院外処方箋への臨床検査値の表示」が広がりつつあります。薬局薬剤師が検査値を確認できることで、用量調節の必要性や副作用の確認がしやすくなります。添付文書の警告・禁忌欄に具体的に検査項目の記載がある医薬品は先発医薬品で約100種類あります。

薬局の店頭で自己採血による血液検査が可能になりました。短時間で気軽に検査が受けられるため、健康診断を受けていない人の生活習慣病の早期発見や疾病予防の動機づけになると期待されています。このように薬剤師の職能は拡大しつつあります。

グローバルに薬局機能をみると、諸外国では実施されているが、わが国では実施できない機能が幾つかあります。薬局の機能がガラパゴス化しないことを願っています。

話題提供①

排尿障害の基礎と最近の薬物療法トレンド

(㊦、H11年卒) 鷓飼政志

楽しい学生時代を過ごした富山を離れ、大学院修士課程を卒業すると同時に製薬会社に入社し、早14年の年月が経過いたしました。あいにく富山を訪れる機会はめっきり少なくなりましたが、それでもやはり、時折テレビ等で富山が特集されているのを見ると、ついついうれしくなってしまう、どうでもよいと思われる情報まで一緒にテレビを見ている子供たちに伝えてしまう自分がいることに気づきます。

学生時代は主に消化管を取り扱った研究テーマに取り組んでいましたが、入社から現在に至るまでの約14年間、何故か一貫して尿失禁や排尿困難といった排尿障害に関する治療薬の創薬・育薬研究に携わることになりました。今回、薬窓会首都圏支部での総会において話題提供をさせていただく機会を頂きましたので、『排尿障害の基礎と最近の薬物療法トレンド』について、ご紹介させていただきたいと思っています。

ご存知の通り、先進諸国の急速な高齢化に伴い、排尿ケアに関するトラブルは年々増加する一方です。排尿障害は、直接生命の危機に関わる疾患・症状ではないものの、その患者の生活の質 (Quality of Life: QOL) に非常に大きな影響を及ぼすということが知られています。また、高齢者介護という観点から見ると、排尿に関わるトラブルは決して本人に限った話ではなく、介護者の負担増加にもつながる重要な問題となります。

かつては、泌尿器科を受診することに対する抵抗感や『年のせい』とあって、治療を受けないまま放置してしまうケースも多かったかもしれませんが、昨今では新しい医薬品・

医療用器具の登場やケア用品が充実したこともあり、積極的に排尿トラブルと向き合う患者さんやご家族の方が増えてきているようです。

首都圏支部総会では、排尿障害の病態、診断や最近の薬物療法など、簡単に紹介させていただき、排尿障害をより身近に感じていただける機会を提供できれば幸いです。

(アステラス製薬株式会社研究本部)

話題提供②

くすりと薬物乱用

(㊧、S43年卒) 牧野由紀子

熱中症注意報の出ていた2014年7月下旬、「さじ加減」をテーマにくすりの両面性についての出版打ち合わせ中、世間を騒がせていた「脱法ハーブ」、「合法ドラッグ」等の未規制薬物の呼称を「危険ドラッグ」とすると決まったという話が飛び込んできました。

“脱法ドラッグ乱用者 4割超に幻覚・妄想”

“規制薬物に緊急指定=池袋暴走の脱法ドラッグ”

“危険ドラッグによる死亡 100人超える”

“危険ドラッグ 狭まる包囲”

“危険ドラッグ条例 15都府県独自規制” …

昨年から上記ヘッドラインが頻繁に出ていることに、気づいている方々も多いと思います。

これまでは、薬物乱用者は、大麻から覚醒剤、麻薬と、強い作用のある薬物を使う傾向にありましたが、近年はその傾向が変化し、法に触れるリスクを回避して薬物を使用したいという需要に、高度な薬に関する知識をもった反社会的な供給グループが応えています。

危険ドラッグのパッケージに入っているのは、強い一過性の意識障害を起こす化学物質を有機溶剤に溶かし霧状にして吹きつけられ

た乾燥植物細片です。「ハーブ」といった健康に良い印象を与えて販売されています。

規制薬物に似た中枢神経興奮作用や幻覚作用をもつ主な危険ドラッグは、合成カンナビノイド系、カチノン系、フェネチルアミン系、トリプタミン系の4グループの化合物に代表されます。いずれの化合物も、鎮静、鎮痛、食欲増進、興奮、催眠などの作用に注目した医療用薬の開発研究の過程での成果が悪用されている多数のアナログ化合物です。

日本では、法に触れないが危険性の高い薬物を野放しにできないということで、2006年から薬事法で、「指定薬物」として個別指定し、2011年には指定薬物が68物質でしたが、次々と化学構造の一部を変えた作用の強い新規の化合物が出回り健康被害が出て、問題が大きくなってきました。2013年からは、同じ基本骨格をもつ物質群をまとめて指定する包括規制の手法を導入し、2015年2月現在、1,443物質が、製造・販売・輸入・所持・使用・譲り受け禁止の「指定薬物」となっています。2013年の合成カンナビノイド系とカチノン系化合物の二度の包括規制で、指定薬物の数が急増し、規制強化されたことで、海外で未使用の強い作用の新規化合物が一気に日本の市場に入ってきたため、大きな事故が多発してしまいました。「さじ加減する常識」をもたない供給グループに規制強化は必須ですが、過渡期であり、ある意味で皮肉な状況が発生してしまったといえます。

手口が次々と変わっていく「振り込め詐欺」に似た危険ドラッグの「イタチごっこ」について、話題提供いたします。前記の本は、日刊工業新聞社2015年1月27日発行の“おもしろサイエンス毒と薬の科学”で、7章を私が担当していますことをこの場を借りて紹介いたします。

ノンポリ学生の一生 (公務員生活を振り返って)

(64、S42年卒) 牧戸 宏 行

郷里三重県の衛生研究所で働くつもりで母校大学院に行きましたが、いくつかの偶然が重なって、昭和44年厚生省に行政職として就職することになりました。

厚生省での薬事関係の仕事の他、科学技術庁、内閣官房等で専門を離れた分野の仕事にも携わりました。仕事を通して特に印象に残っていることについて二三述べたいと思います。

昭和50年代前半、科学技術庁に出向し、科学技術分野の予算評価と研究推進、特に生物・健康分野の研究推進の為の仕事をしました。日本（行政府）は科学技術情報の入手・整理・活用が下手な為か、無駄な事業へ出費も多く、有益な研究成果も充分活用されていないという印象を持ちました。一般の予算についても同様に無駄が多いと思いました。当時、ある新聞記者と雑談したとき日本の予算は七掛け位で丁度良いと言っていましたが、平成の今では、五掛け位が妥当かなと思います。

また、諸外国は諜報組織等も使い日本の科学技術を含む各種情報（特に軍事関係）の収集活動をしている事を実感しました。逆に外国の情報活動について注意を払う日本政府の職員は皆無に近いという状態でした。

昭和60年代始め内閣官房に出向して貿易摩擦対策業務に関わり、閣僚会議、政府与党連絡会議等で政府首脳に同席する等貴重な経験をしました。そのため、政府の経済や外交政策について関心を持つようになり、現在でも政府首脳の発言があると、その背景についてあれやこれやと推測する癖が付いてしまいました。

そこから感じたことは、日本は未だ米国の

占領支配から抜け出せず、益々植民地化の方向に歩んでいるという印象です。我々年代の学生時代は、安保条約反対、ベトナム戦争反対、産官学反対・大学の自治尊重という学生運動が盛んでした。当時ノンポリ学生の私にはそれほど強い危機意識は沸きませんでした。今から判断すると当時の学生運動の目標は正しく、先見の明があったと思っています。昭和の年代までは、国会議員や各界の指導者には旧士官学校卒の方も多かったせいか、日本の国益・独立を守るという気概のある方々が数多くいましたが、平成の年代になって親米派、経済・外交オンチ派が増えている感があります。米国（というより米国を支配する金融資本）は、長期的戦略を持って外交・各国内政への関与を行っています。非外交ルートでの諜報・謀略・ロビー活動にも力を入れています。非親米派の政治家、学者、記者等は謀略等によって排除され、教育、金融、財政、福祉・医療、労働・賃金、選挙制度等あらゆる面で海外の金融資本に有利な方向に、日本の国民には不幸な方向に改革が進んでいる事を危惧しています。

マスコミ報道の偏り、行政、選挙制度の改悪等で難しい面もありますが、将来の日本を担う皆様が政治に関心を持たれ、平和で国民1人1人が幸せに暮らせる日本となる様行動される事を願っております。

外資系企業で働いてみて 思うこと

(67、S45年卒) 北野 栄一

私の歩んできた大半の道は所謂「外資系メーカー」であり、色々体験した中で、幾つか学んだ事と有難いと思う事を回想してみます。

学んだ事で一つ目は、国や国旗にたいする認識を外国の人から教えられました。

26年間勤務した米国系製薬メーカーを終え、欧州系メーカーの日本法人立ち上げのオファーを受けた時のことです。入社前に本社視察を提案され、費用は相手負担で10日ほどかけて本社、工場、研究所の三か所を回りました。工場はアルプス山脈の麓にありました。視察後に工場長が見送ってくれたのですが、その時彼が「栄一、気づいているか？」と尋ねてきました。後ろを指さすので振り返ると、私の訪問に対してフランスの国旗と日本の国旗を屋上に掲揚してくれていて心が打たれました。国旗を通して自分たちの活動に責任を持つと共に、他国に対する敬意を表すことは共通のマナーである事を認識しました。

二つ目は、世界中に色々な文化の異なる国がありますが、自分がされて嬉しいと感じること（逆に自分にされると嫌な事）や、謙虚で回りの人（特に目上）への配慮をする事など価値観は結構普遍的だとわかりました。

よく米国などは非常にフランクな社会で、上下関係などお構いなしに自由に意見を言い合うと聞かされます。でも実際は、特に上司や目上の人に対しては、日本以上に言い方や表現、言葉を選んだ上で自分の考えを話しています。またそのようなことができる人の方が結果的に生き残っていくようです。会社だけでなく、政治や外交の場面でも時々危ないなと思いますが、やはりメッセージは自分が言いたい事を言う視点より相手がどう受けとるかが結果に反映されます。

次にとても有難いと思うことは、日本以外にも長く付き合える異文化の友人がオーストラリアやヨーロッパに居る事です。

4年前の東日本大震災が発生したその日に、各国から私たち家族が当分住める場所を用意したのですぐに移住してきたらどうかとのメールが届きました。その心遣いに嬉しい反面、日本の政府がまだ何の対応も出来ない時期で、逆に本当はどのような状況になっているのかと心配でもありました。震災の

復興は今も道半ばですが、亡くなられた方々のご冥福と共に被災者の心のケアを含めた真の復興が進められる事を心より祈念いたします。

昨年10月にフランスに行き、友人の娘さんの結婚式に出席し、実体験をしてきました。27年前、アメリカ本社での会議で一緒になったフランス人で、会議中に長女誕生のうれしいニュースが入り、お祝いをしました。それからの付き合いで、パリに行くたび食事をしますが、いつも娘さんがついてきました。フランスの結婚式は概ね2度行います。最初は役所で村長（市長）さんの前で宣誓し、これで法律上夫婦として確定します。そこから教会に移動して、日本でもお馴染みの結婚式が始まります。バージンロードに誓いの言葉。なんと、讃美歌が2時間ほど続き、結構疲れました。その後夕方4時ごろから披露宴の為、古いお城に再集合してまず庭園でおしゃべりが始まります。夕闇の中ブーケ・トスのあと部屋に移り、「披露宴」が延々と夜明けまで続きます。明け方4時頃解散のあと、さらに昼からカジュアルなランチ・パーティーが別の場所で開かれます。数時間しか寝ていないのですが、両親たちは子供のために必死で頑張ります。午後3時ごろにやっとお開きになり、ハグをして別れます。日本と違う点は、ウェディングドレスから、当日の化粧から、城の披露宴会場の飾りつけなど、ほとんどの事を新郎新婦の両親と家族が手作りで準備します。

ここから面白いのですが、新婚カップルは、1年間の休暇を取ることを認められており、1週間後に本当に世界1周の旅に出ました。本当に1年かけて、世界の各地で数週間から数か月滞在しながら、異文化を体験するそうです。懐が深いなあと思いました。

卒業以来、全て医療・医薬に関係するビジネスで、また大半を「世界の中」で仕事でできたことに深く感謝をしています。今後若い

方々が日本の良さを伝えながら世界の彼方此方でご活躍される事を祈っております。

患者になって思うこと

(68、S46年卒) 吉 富 恭 助

われわれ薬学部を卒業した者にとって、クスリとはこれに関わる職業の対象であった。クスリが人の痛みや病気を治す手立てであることは理解しつつも、あくまで対象物であった。

健康な薬学士にとってはまさに物質としてのクスリに関心のほとんどがあることだろう。

健康な生活を送ってきた人々も、いつの日か病に侵され、事故でけがをすることもある。

これまで客観的な対象物と考えてきたクスリが、そのとき初めて自分の身体に入ってその何処かに働きかけて作用し、治癒へ向かわせる身近なものとなる。同時にクスリが微量で作用するものであるだけに、口に入れる食べ物とは違ってリスクに対する警戒感も湧く。

2年余り前、午後6時半頃会社からの帰途ビル内の階段を踏み外して転倒し、額に外傷を負い出血した。救急車を呼ぶほどではないと判断し、タクシーでS病院へ向かい、救急外来で手当てを受けた。小一時間のうちに7針縫い、労災の適用も考慮し、全額1万円余で処置してもらえた。午後8時過ぎ、近隣に数軒ある調剤薬局のうちその曜日当番の店舗で、昔からある抗生剤3日分の処方を受けた。確か薬剤費だけでは400円程度であるはずが、全額では1,800円余の支払いをした。このときの感覚は、外科的な処置をしてくれた医師にはほんとうに有難味を感じ、感謝する気持ちがいっぱいであった反面、調剤薬局で特段の服薬指導もないのに高額と思える支払いを要したことに少々不満な気持ちが残った。

医師と薬剤師を比べたとき患者にとって頼りになる、また、患者のことを考えてくれていると思えるのは、やはり医師の方であろう。大方の人たちは医師といえども万能ではないことは分かっている。しかし、多くの医師はその全知全能をかけて患者と向き合っている。一方、薬剤師がクスリのみに関心があり、患者に向き合っていないとしたら、今後も医療関係者の中で薬剤師のポジショニングが良くなることはないと思う。患者——不定で多様な存在、しかし一人ひとり人格をもつ——に対して向き合い、調剤したクスリの服用後についても、病状の変化や健康回復について関心を示して責任ある対応のできるプロフェッションであることが求められている。

保険薬局などにおける服薬指導の際、患者とクスリの状況に応じて患者側に立った説明ができ、必要な場合は不安や懸念を払拭できる丁寧なアドバイスを薬剤師が出来るようになって初めて医薬分業の意義が理解され、また薬剤師が存在価値ある職業として敬意を払ってもらえるのではないかと考える。

「アタック25」参戦記

(㊟、S48年卒) 大西 美知子

「さて、この都市は？」

「ウーン！」

2年前の日曜日、お昼のクイズ番組「アタック25」で優勝し、念願のクルーズ旅行をゲットした瞬間です。

この時からしばらく夢見心地の毎日が続き、私の人生の中でもなかなか味わえない幸福感をもたらしてくれました。

皆さんはクイズ番組をご覧になりますか？

一時は日本中ですごいブームとなりましたが、今は昔。一般の視聴者が参加できるものはこの「アタック25」だけとなりました。

実は私、ひょんなことから「第1回大陸横

断ウルトラクイズ」に出たのがきっかけでクイズ好きになり、以後時々、いろいろな番組に参加していたのですが、当時は「出場すること」で満足してしまっていて、いつも結果は二の次。クイズサークルに入って精進するような気持ちもなく、家だけで楽しんでおりました。今回久しぶりに「アタック25」に出る！と決めたのは優勝賞品の「地中海クルーズの旅」につられて……なのです。

元々旅が好きで、今も「世界中を見て回ろう！」との思いで良く旅行しています。でもクルーズは未経験で、正直もう少し年取ってからでいい、と考えていました。が、義兄夫婦がクルーズにはまってその楽しさを聞かされ、私も行ってみたいなあ……と思うようになっていたのです。

いざ挑戦！しばらく実戦から遠のいていたので頭の中は錆び付いて何をするにも鈍く反応の遅いこと。これで勝つには同世代が相手の「熟年大会」での参加しかない！と考えました。

ちゃんと新聞を読みニュースに耳を澄ませ何とか予選を通過、首尾よく出演の依頼を貰うことができました。でも何しろ仕事を辞めて呑気・気儘に暮らしてきたものですから全ての回転を良くするのは大変！「アタック25」はオセロとクイズが合体した番組で25枚のパネルを4人で取り合うものなので、早押しはもちろん、パネルの取り方も重要です。私はこれが下手で、前回までは（実は今度が3回目の挑戦）いつも墓穴を掘っていました。今回はそれに加えてこの年齢になっていますから少々怪しい頭の中。勉強しても一度では覚えられなくて実にもどかしい……出演依頼の電話があつてからの1ヶ月間、これほど真剣に準備に取り組んだのは初めてだったのではないのでしょうか……！（受験勉強よりも?!）

さて、いよいよ本番。収録の予定時間がずれてお昼を食べ損ね、お腹がグー。急場凌ぎに飴を頬張った途端、収録開始！焦りまし

ジアステレオ選択的 アミドマーキュレーション 反応

(㊸、H3年卒) 坂東裕志

た。マイクの性能がいいので囁むと音が入っちゃうし……喋り難くて仕方なく口の中で溶けるのを待っていると、他の皆さんポンポンと答えてパネルを取っていくし……ありや出遅れてる……。

でも結果的にこれが幸いして程よく盤面の真ん中が埋まった頃に解答でき始め、あっという間に逆転してほとんど私の色に。その後は取ったり取られたりとスリリングな展開で、ボケありミスありなかなか面白い「熟年大会」となりました。ライバルの女性に逆転された時は、いつもならここで気持ちが弱くなって押し切られてしまうのですが、この度は違いました。自分でも不思議なくらい落ち着いていて「絶対負けない！」と妙な自信があったのです。ラスト2問目で再逆転、ラスト問題でダメ押し。やった～！ いやー嬉しかったですね。最後のクルーズをかけた問題も訪れたことのある都市が出て、とてもラッキーでした。

ご褒美のクルーズも考えていたよりもずっと素晴らしく楽しい旅でした。今日本でもクルーズブームとか。人気が出るのも判ります。私もハマりました。

クイズを楽しむことは「脳活に繋がる」と感じています。毎日の出来事に敏感になりますし、本や新聞もしっかり読むようになります。反射神経も鍛えられ、脳や体に刺激を与える良い機会となります。まだまだお元気で活躍なさっている方々が多いとは思いますが、こんな若さの保ち方もいいのじゃないでしょうか？

プロデューサーが言っていました。「本当は70歳前後の方で“熟年大会”をやりたいのですが、応募者が無くて……」

皆さん、挑戦なさっては如何でしょう？！

表題は、大学の研究室時代、私が主に行っていた有機化学実験での名前である。この反応を用いた合成で、私の名前が執筆者の一人(second author)として書かれた英字論文は、多分5報ぐらいあったと記憶している。しかし当時の私はこんなものが出たところで、全く嬉しさを感じてなかった。私にとっては、単に暗い研究室生活の象徴である。朝は9時前に教室に到着し、帰りは土曜も含めてほぼ午前様。実際、昼夜問わずボーっとしてしまうことも多く、講座の先生方からは厳しい叱責が飛んだ。その当時付き合っていた彼女ともすれ違いの生活の中で別れてしまった。精神的にも肉体的にも相当参っていたと思う。大学院2年の終盤ころには、血便が止まらず便器が鮮血で真っ赤に染まるが多かった。

「私は製造化学教室に迷い込んだ人足。先生方の怒りのはげ口。早くこんな世界から逃げ出したい。」

そんなやさぐれた気持ちを持ちつつも時は過ぎ、無事、私は大学院前期課程を修了し、晴れて社会人となった。

私の指導教官であった高畑廣紀先生は、私が大学院生の時、偶然にも私の今と同じ45歳。薬学会奨励賞獲得に向け、バリバリ仕事をされていた。いい加減な私に対し、時に厳しく、時に非常に厳しくご指導していただいた。

現金なもので、卒業後は暗黒の時代と思っていた研究室に対して、やさぐれた気持ちを持つことも無くなり、むしろ感謝の気持ちだけが残った。しんどい部活のようなものであろうか。その後に仕事でキツイことがあっても、あの苦しさを思えば、かなり平気でいら

れたと思う。

大学卒業後は、ほぼ年賀状だけの付き合いではあったが、高畑先生とは毎年連絡を取らせていただいていた。高畑先生が東北薬科大学に移られてから、「たまには遊びに來い」という便りを何度か頂き、一度は挨拶に伺わなければという思いもあったが、なかなか訪問することができなかった。

そんな高畑先生が、昨年3月に急逝された。高畑教授退官記念パーティーのほぼ1週間前のことだった。

記念パーティーで「長い間、お疲れ様でした。」と伝えなければいけなかったのに。「僕、あんな馬鹿学生だったけど、いい大人になったでしょう」と先生に自慢したかったのに。「アミドマーキュレーション、僕の人生で一回も役立つことなかったですよ。」と軽口を叩きたかったのに。

あまりに突然の出来事。

高畑先生はずっと忙しく、波乱万丈な生き方をされてきたと思います。だからこれからはゆっくりお休みください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

メディカル アフェアーズ って何だろう？

(㊟、H10年卒) 本田(山本)唯子

ここ数年で、外資系・内資系、企業規模の大小を問わず、「メディカル アフェアーズ」をもつ企業が増えたように思います。2013年の日刊薬業でも「国内製薬各社 メディカルアフェアーズの設置加速」という記事を目にしました。各社が部門を新設もしくは「学術部」等から名称変更して設置しているようです。小さい会社ながら私自身が所属する部署も、日本法人において数年前に営業・マーケティング部門との切り離しが検討され、マーケティング本部から開発本部の所属となりま

した。本部名・部門名に更にカタカナが並ぶグループ名も加わり、名刺を受取った方からは「何をやっている部署ですか？」と質問いただくこともままあります。個人的にもカタカナ続きの所属名を持って余し、顧客（特に医療機関の先生方）と接する際は、「学術担当です。」と言って名刺を渡すこともしばしば…。

各社によって業務内容の違いもあり、メディカル アフェアーズとはどんな部門なのかは一概にはいえませんが、私自身の業務の一部をご紹介しますと、マーケティング部門が作成する販促資材の学術チェックや学会聴講に伴う社内レポート作成などがあります。業界内でも新しい概念(?)の部門として、業務内容や他部署との連携には未知数が多いように思います。弊社内でも数年前に設置されたとはいえ、業務上、手探りで頭を悩ませることもあるのが現状です。

最近では、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団が『高度な科学・医学知識や倫理観を基に、キー・オピニオン・リーダー(KOL)と考えられる医師のマネジメントなどをする「メディカル アフェアーズ」の認定制度』を設けました。2015年1月に実施された第1回目の認定試験に140名近くが合格したとのことですので、遠久朶をご覧になっている方の中にも合格された方がいるのではないのでしょうか。残念ながら、私自身は諸事情でまだ本認定を取得できていません。(認定を取得された方、ご一報いただけますと幸いです！)

また、メディカル アフェアーズと並び、メディカル・サイエンス・リエゾン(MSL)という職種も最近よく耳にします。日本製薬医学会によると、MSLとは「医学・科学における高度な専門性、学術知識や学位を持ち、社外・社内において医学的・科学的な面から製品の適正使用の推進、製品価値の至適化などを支援する職種。社外ではオピニオンリーダーや医学研究者などを訪問し、医学的・科学的な

議論や学会活動などを通じて医学情報の伝達・入手を行っています。」2014年には日本製薬医学会が外部からMSLを認定する制度事業を開始しました。まずは某外資系製薬会社のMSL制度の運用状況を審査する中で認証プロセスを確立することのこと。

今後、日本におけるメディカル アフェアーズを取り巻く環境はどうなっていくのか、不安と期待を抱きながら日々を過ごしています。

これまでとこれから

(㊦、H26年卒) 東 秀 行

自由に、というお題に何を書こうか悩みましたが、今回は社会人になって約1年が経過したということで、これまでの振り返りとこれからの抱負を書く機会にさせていただきます。

私は2014年3月に富山大学大学院を卒業し、製薬企業に入社しました。現在は都内の研究所（埼玉県との県境付近）に配属され、薬物動態研究に携わっています。石川県出身で富山大学に通学していた私にとって、東京での生活は不慣れなことが多く苦労しました。今では東京の便利さに慣れ、逆の立場になりましたが…（笑）。

さて、この1年を振り返ると様々な方との出会いがありました。平成26年度薬窓会首都圏支部総会は印象深い出来事の1つです。富山大学出身の先輩方がこれほどたくさん首都圏にて活躍されているとは知りませんでした。十数枚持って行った名刺もすぐに無くなってしまい、大変驚きました（名刺交換できなかった方、申し訳ございません）。懇親会では、私と同じ金沢二水高校出身の大先輩とも知り合うことができ、非常に有意義なお話を聞かせていただきました。他にも多くの経験話や考え方などを聞かせていただき、大変刺

激を受けました。次年度の総会にもぜひ参加させていただきたいと思います。また、配属された部署では私と同じ薬剤学研究室出身の先輩と出会いました。仕事をテキパキとこなし、困ったときは親身になってくれる心強い存在であります。勝手ながら十年後の目標像にさせていただきます。

これまで、小学校の入学から大学の卒業まで必死に土台を築いてきました。これからは、その土台に様々なものを積み上げていき、人間性を高めていくものだと考えています。多くの出会いを通じて、先輩方がどのような知識や経験、考え方などを積み上げてきたかを感じさせていただきました。私はまだ土台だけの殺風景なものですが、先輩方のような立派な建物を築けるようにこれからも研鑽を続けたいと思います。今後とも、宜しくお願い致します。

薬学卒の商社マン!!

(㊦、H26年卒) 高 橋 遼 平

皆さま、はじめまして。第101回卒の高橋遼平と申します。去年の春に私は富山大学大学院（修士）を修了し、某製薬会社（商社？）の東京支店で働いております。

研究室時代は倉石教授（応用薬理学研究室）のご指導の下、“かゆみ”についての研究を微力ながらさせていただきました。大学院生というモラトリアム時代を本研究室で過ごすことができたおかげで、私自身の思考力を存分に高めることができたかと自負しております。

さて、冒頭にて弊社を商社？ という様に紹介しましたが、それには理由があります。就職活動中、私はモニターになるべく製薬会社の開発職を志望しておりました。現在勤めている会社からは医薬品の開発職として採用されましたが、会社というものは非情なもの

で、現在、私は商社マンとしての仕事を行っております。主な業務はヘルスケア品の輸出です。貨物の梱包状態、輸送方法、取引条件等を決め、主に連絡を取り合うのは通関業者・輸送会社です。ただ、モニターへの志望動機は「新しいことを体験したい」というものであったため、現在の業務はとても新鮮であり満足はしておりますが…。入社一年目から、貨物が輸出不可になったり、請求金額と先方からの振込金額が異なっていたりと問題ばかりでした。更に、出張で富山に行く機会があったのですが、たまたまその日だけ非常に悪天候で、飛行機に乗ったはいいものの富山空港に降りられずに羽田まで引き返したこともありました。おかげさまで、先輩からは「高橋と仕事をすると何かが起こる」「高橋と一緒に仕事をしたくない」などお褒めの言葉をよく頂きます。ただ、このような経験を若いうちに沢山しておけば、その内何が起こっても冷静に対処できることでしょう。なので、今はどんな問題もWELCOMEでございます。

最後に、薬窓会首都圏支部会では優しく素敵な先輩方にお会いできて非常に楽しい時を過ごすことができました。この場を借りて深く御礼申し上げます。ほとんどの皆さまとは違う舞台で働いておりますが、富大薬学部(富山医薬大)卒として誇りを持ち、日々の業務を行っていきます。まだまだ未熟な商社マンですが、これからも何卒、宜しく願い申し上げます。

ゴルフクラブ便り

第86回を数える薬窓会ゴルフコンペは、会員のみなさんの「たまには、違うコースも回ってみたい」という要望を実現する形で、久しぶりに千葉県を離れて、茨城県の名門ゴルフ場に戦いの場所を移しました。昭和36年開場ですから、50年以上の歴史を持つ「常陽カ

ントリー倶楽部」(「つくばみらい」市)。この一帯は、当ゴルフ場の他にも、「茨城ゴルフ倶楽部」や「筑波カントリークラブ」など、関東のみならず、わが国でも指折りの名門ゴルフ場が集まっているところでもあります。

ほとんど高低差のない平らな地形ですが、距離は十分で、しかも乗用カートがない、自らの足が頼りのコースです……因みに、千葉県の「八千代ゴルフクラブ」も、乗用カートを設置していないコースです。

さて今回の最高のご報告は、『なんと、女性会員が2名も新規参加された』ことです！

井上満子さん(55回)と、大塚幹子さん(70回)のお二人です。薬窓会ゴルフクラブには、かつて大澤さん、川村さん、上村さん、布施さんなど、常に数名の女性会員が出席され、コンペに“華やかさ”を提供していただきました。今回は、常連の布施さんに加えて、井上さんと大塚さんが参加して下さったのですから、私たち世話役はもちろん、男性会員のみなさんも大喜びでした。

井上さん(布施さん、都築さん、柿崎の同期生)は学生時代にソフトボールで鍛えた筋力を活かした“ナイス・スイング”で、みんなを驚かせてくれました。もう一人の大塚さんは日ごろの練習と実戦の成果を表すやはり“ナイス・スイング”、随所で「快音」を聞かせてくれました。

10月31日(金)でしたが、平日でも簡単には予約できず、やっと実現できた次第です。

当日、雨の予報はなかったのですが、スタート直前にほんの瞬間、パラパラッと雨が落ちてきて心配しましたが、その後はずっと好天に恵まれ、楽しくプレーできました。

さて今回の優勝は、最近進境著しい石井誠司さん(58回)でした(52・46=98)。準優勝は関誠さん(47回)、3位安宅さん、BBは川畑さんでした(2014年10月31日実施)。

(事務局：㊦、S43年卒 柿崎 直和)

⑩、S48年卒 中西 憲幸
北陸新幹線グランクラス搭乗記

3月31日の夜、清水の舞台から飛び降りた気持ちで、富山から大宮までグランクラスに乗車した。食事がつき、アルコールは飲み放題というもの、料金はプラス13,370円と高額である。横3席で、縦は6列の定員18名で、座席は革張りで超豪華。キャビンアテンダントは若くて綺麗だが、不慣れでぎこちない。食事は和食がなくなり、洋食を頼むとショボいサンドイッチ。次回は高級弁当を購入し、グリーン車に乗車する。

⑪、S29年卒 基常 広晃
愚作ですが俳句にしてみました。
・老いて知る 朔旦冬至 夜の長し
・みどりの日 病忘れし 緑茶の香
・春北風 (はるならい) 負けじと妻の 鍋料理

⑫、S42年卒 庄司 孝市
遠久朶寮出身の皆様、また近隣の卒年度の皆様、お元気のことと思います。今年度は北陸新幹線も通り、秋に富山で同級会の予定となっております。皆様と会える日を楽しみにしています。

⑬、S36年卒 川上 惇
1月末に志賀高原 西館コースで「東京都マスターズスラローム競技会」があり、75歳以上の組で優勝することができた。昨年も優勝したので、二連覇である。長く競技スキーをやっているということもある。まさに継続は力なり、である。

⑭、S47年卒 井本 直樹
製薬メーカーを退職し丸八年、医学医薬品系雑誌社に週5～2日を4年間、1年半のお休み、医療機器会社へ週1日を1年半、富山に本拠地を置く配置用医薬品会社に週0.5日

を1年、そして薬剤師の生涯研修をeラーニングで提供する現在の職場に週3日、薬剤師仲間と資格が縁を取り持ってくれる毎日。感謝!!

⑮、S47年卒 清水 善行
本年3月末にエーザイでの43年の勤め(雇用延長5年含)を満了し、4月からは住居管理組合と高校同窓会の役員を引き受けました。夏のトレッキングと冬のスキーは引き続き楽しみ、落ち着いたら薬剤師免許を生かします。

⑯、S54年卒 道見 茂樹
今年も家庭菜園の話題から。昨年初めて栽培したのは、北海道の実家からもらった「ハックルベリー」の種。アントシアニンがブルーベリーの5倍含まれているというのが売りで、紫色の色鮮やかなジャムをつくり、楽しみました。

⑰、S37年卒 鈴木 国男
故三橋監物教授が、小生の故郷(千葉県多古町)隣接の成田市出身であるのはご自身から伺っていましたが、最近、母学二代目(富山県立薬学専門学校)校長平山増之助氏が、小生と同郷の出身であることを知り、その偶然に驚いています。

⑱、S47年卒 三浦 嘉統
住所が変わりました。マンションの部屋番号が302から301となりました。会社名が変わりました。日本メディケア(株)から、日本メディケアホールディングス(株)です。代表取締役はそのままです。

⑲、S40年卒 廣瀬南海子
わたし達昭和40年卒雷鳥会(らいちょう会)は、来年(平成27年)は富山での再開となります。乗り換えて、へたすると9時間もかかったところ、楽しみな新幹線直行の開通です。

④、S28年卒 眞船 恒雄
80歳を記念して、4年を掛けてPCに自分史を入力しました。戦前（幼少）、戦中（学生）、戦後（会社～現在）の激動する時代の変化をまとめ、我が人生の集大成としました。振り返って凄まじい激動の人生を乗り越えて来れたことに達成感を味わっています。

⑤、H10年卒 高瀬 明子
比較的（笑）若手メンバーとご家族で、有明のそなエリアでBBQしました(2014/8/24)。いつもの顔ぶれに加え初／久々参加の方も多く、暗くなるまでとても盛り上がり、楽しい夏の日でした。



⑧、H8年卒 鎌倉 昌博
スキー好きが家族連れで集まり、1泊二日で湯沢温泉に行ってきました。快晴のゲレンデは素晴らしい景色でした。その中でスキーを楽しみ、お子さんを肴に美味しいお酒をいただき、最高のひと時を満喫しました。



平成26年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会
平成26年度首都圏支部定期総会
平成26年6月28日（土） ビジョンセンター日本橋
2. 幹事会
第1回幹事会：
平成26年9月4日（木） ビジョンセンター日本橋
第2回幹事会：
平成26年12月4日（木） ビジョンセンター日本橋
第3回幹事会：
平成27年2月4日（水） ビジョンセンター日本橋
3. 平成27年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付：
平成27年2月5日発送
4. 平成26年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会：
平成27年3月24日（火） 中西
5. 平成26年度薬窓会近畿支部総会：
平成26年6月1日（日） 中西
6. その他
薬多津三金会（毎月第三金曜日開催）
於：多津よし（東池袋）
五福会 5月21日（水）、12月3日（水）
於：白山富山会館

総会参加者・年会費納入者・及び遠久郵送者数推移

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年
総会 参加者	58名	68	84	71	64
年会費 納入者	297名	288	278	237	282

平成26年度 首都圏支部役員

支部長 : S48年卒 中西 憲幸
副支部長 : S46年卒 加藤 健二
 H8年卒 平岡 良隆
幹事長 : S54年卒 道見 茂樹
副幹事長 : S43年卒 柿崎 直和
監 事 : S47年卒 松本茂外志

平成26年度会計報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	5,512,708	5,510,393	
年会費	400,000	372,970	
総会参加費	500,000	411,000	
普通預金利息	1,000	811	
合 計	6,413,708	6,295,174	
II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	500,000	416,864	
会合費(幹事会等)	20,000	75,108	
交際費	10,000	0	
事務通信費	100,000	93,976	
同好会補助費	40,000	40,000	
会報発行費	300,000	352,715	
出張費	85,000	60,000	
事務局費	150,000	113,379	
次年度繰越金(普通預金)	5,208,708	5,143,132	
合 計	6,413,708	6,295,174	

平成27年度予算(案)

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	5,143,132	総会費	450,000
年会費	400,000	会合費	80,000
総会参加費	500,000	事務通信費	100,000
普通預金利息	1,000	同好会補助費	40,000
		会報発行費	400,000
		出張費	60,000
		事務局費	100,000
		次年度繰越金(普通預金)	4,814,132
合 計	6,044,132		6,044,132

平成26年度 支部年会費納入者一覧

(合計 282名)

※平成26年5月から平成27年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
26	昭和13	竹澤富三	44	昭和32	紙谷得子	48	昭和36	油木劭之
28	昭和15	岩崎光一	44	昭和32	車田千秋	48	昭和36	川上 惇
34	昭和21	織井文貞	44	昭和32	鈴木芳子	48	昭和36	川上芳子
35	昭和22	野村哲夫	44	昭和32	高木良造	48	昭和36	熊木健治
37	昭和24	秋元 昂	44	昭和32	高瀬清孝	48	昭和36	中嶋 啓
37	昭和24	井上三郎	44	昭和32	林 吉孝	48	昭和36	藤原 忠
37	昭和24	千葉繁治	45	昭和33	荒木紀子	48	昭和36	船場定信
37	昭和24	水牧勝美	45	昭和33	大郷利治	48	昭和36	前田伸子
37	昭和24	山口輝夫	45	昭和33	児玉英篤	48	昭和36	松繁克道
37	昭和24	大和宗雄	45	昭和33	佐藤 忠	48	昭和36	三浦 晋
38	昭和25	上野 洵	45	昭和33	佐藤池鶴子	48	昭和36	吉田誠一郎
39	昭和26	本郷 修	45	昭和33	新森信正	48	昭和36	吉田光昭
39	昭和26	米丸洋子	45	昭和33	橋浦十八	49	昭和37	小川信吾
40	昭和28	千原秀夫	45	昭和33	松岡慶子	49	昭和37	川村博子
40	昭和28	眞船恒雄	45	昭和33	安田孝子	49	昭和37	鈴木国男
41	昭和29	志甫 正	46	昭和34	安藤統美	49	昭和37	林 幸子
41	昭和29	前川 昶	46	昭和34	尾嶋司郎	49	昭和37	土方久家
41	昭和29	基常弘晃	46	昭和34	川畑耕祐	49	昭和37	廣江光代
42	昭和30	荒川泰蔵	46	昭和34	齊藤諒三	49	昭和37	古谷 孝
42	昭和30	石黒純三	46	昭和34	中村恵子	49	昭和37	三尾美和子
42	昭和30	久世啓吾	46	昭和34	西岡碩枝	49	昭和37	見義治子
42	昭和30	桑野二郎	46	昭和34	森 哲朗	50	昭和38	飯田武治
42	昭和30	佐藤哲男	46	昭和34	結城澄子	50	昭和38	川田桂子
42	昭和30	佐藤正美	47	昭和35	伊勢谷篤弘	50	昭和38	木原幸弘
42	昭和30	種谷 豊	47	昭和35	市中滋郎	50	昭和38	輿水誠子
42	昭和30	渡邊 静	47	昭和35	梅原 弘	50	昭和38	定塚紀志子
43	昭和31	落合信雄	47	昭和35	倉石弘一	50	昭和38	高野祐子
43	昭和31	久郷正孝	47	昭和35	小国益男	50	昭和38	武石万里子
43	昭和31	車田知之	47	昭和35	須藤昌二	50	昭和38	野中美代子
43	昭和31	元田 修	47	昭和35	関 誠	50	昭和38	福田昌平
43	昭和31	古徳 治	47	昭和35	並木英明	50	昭和38	前田一郎
43	昭和31	細 信彦	47	昭和35	橋本喜信	50	昭和38	宮澤英雄
43	昭和31	本多 存	47	昭和35	古川貞子	50	昭和38	脇谷紀代子
43	昭和31	山岸伸郎	47	昭和35	室生知子	51	昭和39	石塚典子
43	昭和31	脇田秀雄	47	昭和35	安川正巳	51	昭和39	加賀美壯一
44	昭和32	井沢ノブ	47	昭和35	安川椒子	51	昭和39	島田庄蔵
44	昭和32	岩崎 朗	48	昭和36	安宅久弥	51	昭和39	島田輝子

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
51	昭和39	諏訪庸夫	55	昭和43	南 菖子	60	昭和48	中西憲幸
51	昭和39	塚越由美	56	昭和44	加藤正子	60	昭和48	山下晴義
51	昭和39	那須邦久	56	昭和44	金 知出	61	昭和49	清永城右
51	昭和39	長谷川悦子	56	昭和44	鈴木英世	61	昭和49	杉林堅次
51	昭和39	古市泰宏	56	昭和44	深澤 宣	61	昭和49	中村直隆
51	昭和39	宮城征子	56	昭和44	三石史郎	61	昭和49	和田健司
52	昭和40	小野澤カツ子	56	昭和44	山岸悦子	62	昭和50	田島明美
52	昭和40	是枝 濶	56	昭和44	山本 恵	62	昭和50	西山信右
52	昭和40	廣瀬南海子	56	昭和44	横山司甫	62	昭和50	萩野洋子
52	昭和40	星野洋子	56	昭和44	綿鍋維男	63	昭和51	泉 真美
52	昭和40	水林須美子	57	昭和45	天笠之珠子	63	昭和51	高橋裕子
53	昭和41	安西慶子	57	昭和45	伊藤要一	63	昭和51	萩野幸司
53	昭和41	岩崎孝一	57	昭和45	北野栄一	63	昭和51	堀尾真理子
53	昭和41	木村信子	57	昭和45	中島和彦	63	昭和51	本郷富江
53	昭和41	坂本理英子	57	昭和45	服部 仁	63	昭和51	和田仁美
53	昭和41	林 聰	57	昭和45	藤村元成	64	昭和52	坂口一夫
53	昭和41	曲淵徹雄	57	昭和45	本田伊都子	64	昭和52	鈴木利之
53	昭和41	南 法夫	58	昭和46	石井誠司	64	昭和52	西山 祥
53	昭和41	村上則彦	58	昭和46	石田行知	64	昭和52	真船英一
54	昭和42	市川 隼	58	昭和46	上田宗央	65	昭和53	大岸洋子
54	昭和42	市川春子	58	昭和46	加藤健二	66	昭和54	井上 豊
54	昭和42	金森朱美	58	昭和46	河内秀明	66	昭和54	井上彩子
54	昭和42	小木曾周子	58	昭和46	河邊恭吏	66	昭和54	草柳淳子
54	昭和42	奥田昌子	58	昭和46	千田耕平	66	昭和54	鹿田史紀
54	昭和42	佐藤和恵	58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	金子美代子
54	昭和42	庄司孝市	58	昭和46	三石知恵子	66	昭和54	川崎英之
54	昭和42	庄司幸子	58	昭和46	村上 学	66	昭和54	徐 裕子
54	昭和42	長谷見蓉子	58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	道見茂樹
54	昭和42	牧戸宏行	58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	道見優子
54	昭和42	山口征司	59	昭和47	市川妙子	66	昭和54	原 信行
54	昭和42	竹内美千代	59	昭和47	井本直樹	66	昭和54	真船恭子
55	昭和43	阿部 啓	59	昭和47	駒田由美子	68	昭和56	益見厚子
55	昭和43	石橋嘉夫	59	昭和47	清水善行	69	昭和57	竹内 誠
55	昭和43	井上みどり	59	昭和47	林 恵子	69	昭和57	小林真弓
55	昭和43	梅本美智子	59	昭和47	松本茂外志	69	昭和57	塚本尋子
55	昭和43	太田晴美	59	昭和47	三浦嘉統	70	昭和58	浦本博志
55	昭和43	柿崎直和	59	昭和47	三輪 保	70	昭和58	遠藤義之
55	昭和43	加藤忠昭	60	昭和48	加藤マリ子	70	昭和58	大塚幹子
55	昭和43	杉田惇子	60	昭和48	田中加代子	70	昭和58	茂呂今日子
55	昭和43	滝沢春美	60	昭和48	末木愛子	70	昭和58	山口貴史
55	昭和43	牧野由紀子	60	昭和48	千田豊子	71	昭和59	黒田豊志
55	昭和43	松野 萌	60	昭和48	田谷栄子	71	昭和59	木暮政恵

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
71	昭和59	小澤佐余子	77	平成2	的場義典	86	平成11	大野いずみ
71	昭和59	松井哲夫	77	平成2	山本善一	86	平成11	鵜飼政志
72	昭和60	嵯峨 学	78	平成3	坂東裕志	86	平成11	鈴木智之
72	昭和60	根岸邦枝	79	平成4	鈴木 寧	89	平成14	榎本隆吾
72	昭和60	畑中朋美	81	平成6	杉山 潔	90	平成15	山木陽子
72	昭和60	朝比奈正博	82	平成7	井上博文	97	平成22	宅間祐太郎
72	昭和60	内藤 剛	82	平成7	鍋木淳平	99	平成24	五月女達也
73	昭和61	阿部弘之	83	平成8	鍋木千里	101	平成26	東 秀行
74	昭和62	高土居雅法	84	平成9	木村 徹	101	平成26	高橋遼平
74	昭和62	林 知世	84	平成9	宅和知文	旧職員		中込和哉
76	平成元	朝倉 渡	84	平成9	膝附由香	大学院修了生		鳥居塚和生
76	平成元	畠山伸二	84	平成9	森山明子	旧職員		竹口紀晃
77	平成2	齋藤みのり	84	平成9	木村 徹	他、氏名不明1名		
77	平成2	紺谷 徹	85	平成10	川邊香代	(鎌倉の郵便局から入金)		
77	平成2	増本純也	85	平成10	高瀬明子			
77	平成2	松村謙二	85	平成10	渡辺 誠			

葉多津三金会 今年の開催日（毎月第三金曜日）

5月15日、6月19日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日

毎月欠かさず午後6時30分からおいしい牛タンを食べながら呑んでいます。

多津よし 東京都豊島区東池袋5-9-6

有楽町線「東池袋4番出口」より徒歩3分

電話：03-3985-8776

— 首都圏支部年会費振込みのお願い —

昨年から新たに事務局業務の一部を㈱同窓会事務局へ依頼することにし、これに伴い、これまで年会費は郵便局からの振込みだったのが、コンビニからも可能となりました。振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度1,000円が入金されることとなります。

なお、コンビニでこの用紙を使用する場合、振込金額の変更はできないため、別途支部活動への寄付金用の振込用紙を同封してあります。一昨年から年会費を1,000円以上としたことにより、一定の効果が上がり若干ですが赤字額が改善しつつあります。この趣旨を汲んでいただき、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。

また、会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。

よろしくお願い申し上げます。

— 編集後記 —

昨年は総会会場が案内状を送付した後で変更になってしまい、役員一同大変な思いをしましたが、会場のアクセスがよく、また料理もおいしく目新しいこともあって好評でしたので、今年の会場も同じところに決めました。

今年首都圏遠久朶は、昨年より投稿数も増え、話題も幅広くとても読み応えのあるものになりました。また、裏表紙の総会集合写真も、顔をみると誰が出席していたかがよくわかる（加齢による変化も）ようです。

昨年から資産減少対策としてコンビニでの納入が可能な用紙に変更しました。その効果が現れたのでしょうか、会費納入されたのは282名と平成25年度の納入者数237名から増加がみられました。ただ、それ以前の数に戻ったともいえるのですが。

ここ3年間、総会には毎年新入会員の参加があり、また若い方々の参加人数も増えてきています。首都圏支部の運営を若い世代にきちんと引き継ぐためにも、総会や遠久朶をこれまで以上に魅力があり、充実したものとするべく、役員一同これからも努力を続けていく所存です。

また、若い会員の皆さん、三金会へも遠慮せず参加してください。たまには先輩とのコミュニケーションもいいものです。

最後になりましたが、皆様の定期総会へのご出席をよろしく願いいたします。

(幹事長 ㊦、S54年卒 道見 茂樹)

事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株)同窓会事務局：info@egaomax.com

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

平成27年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成27年6月27日（土） 14時00分～18時30分（開場：13時30分）

場 所：総会「ビジョンセンター日本橋」地下鉄銀座線・半蔵門線 三越前
A4出口スグ、コレド室町3ビル隣

住所：東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル5階

TEL：03-6225-2693

懇親会「CALENDAR」：場所は同じビルの9階です。

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合13,000円）

平成13年3月～平成22年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成23年3月～27年3月）：無料

話題提供 ① 鶴飼 政志氏（86回卒 アステラス製薬株式会社 研究本部）

「排尿障害の基礎と最近の薬物療法トレンド」

② 牧野由紀子氏（55回卒 東京大学大学院薬学系研究科薬学部研究員、
厚生労働省関東信越厚生局麻薬取締部元主任鑑定官）

「くすりと薬物乱用」

- * 会場は昨年と同じです。
- * 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。
- * 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。





平成26年度薬窓会首都圏支部総会（平成26年6月28日、於 ビジョンセンター日本橋）